

～アトピー性皮膚炎や皮脂欠乏性皮膚に対するセラブロシドの効果～

☆セラブロシドとは

セラブロシドは**セラミド**の末端に**ガラクトース**という糖が結合したセラミド配糖体と言われるもので、脳に豊富にある糖という意味を持つセラブロースから命名されたそうです。そのためセラブロシドは化粧品表示名であり、成分名としては**ガラクトシルセラミド**を指します。セラブロシドはケラチノサイトの分化を促し、正常な角化を促進する作用があると言われています。

☆セラブロシド含有クリームによる試み

皮膚炎を有する 54 名の患者（アトピー性皮膚炎 21 例、皮脂欠乏性湿疹 28 名、他 5 名）を対象に、セラブロシドを 1% 配合したクリームを 1 日 1-2 回、4 週間塗布したときの効果を示したデータがあります。対照には基剤を用いています。

アトピー性皮膚炎、皮脂欠乏性湿疹の症例について、セラブロシド含有クリームの有効性評価を下記に示します。

【評価方法】

各症例において皮膚の乾燥状態、鱗屑（りんせつ：皮膚表面を覆うかさぶた状のもの）、瘙痒について、「著効」「有効」「やや有効」「有用と思われる」「有害」の 5 段階で評価しています。下記の表は皮膚症状の改善度合いや副作用等を考慮した総合評価をまとめたものです。

【結果】

試料 (基剤：クリーム)	アトピー性皮膚炎21例の評価 (例)		
	極めて有用	かなり有用	やや有用
1%セラブロシド	11	5	5
クリームのみ	4	12	5

試料 (基剤：クリーム)	皮脂欠乏性湿疹28例の評価 (例)		
	極めて有用	かなり有用	やや有用
1%セラブロシド	13	15	0
クリームのみ	4	24	0

今回の検討において、セラブロシド含有クリームはいずれの症状においても副作用は見られませんでした。

そしてアトピー性皮膚炎、皮脂欠乏性湿疹の皮膚の**全例に対してやや有効以上の効果を示しました**。

その中でも、「極めて有効」はアトピー性皮膚炎で 11 例（52.4%）（※論文上では 14 例（66.7%）となっていますがおそらく間違いです）、皮脂欠乏性湿疹で 13 例（46.4%）に判定されています。

【考察】

アトピー性皮膚炎も皮脂欠乏性湿疹も臨床の所見では同様な乾燥皮膚となりますが、今回皮脂欠乏性湿疹よりもアトピー性皮膚炎の方が有効であったのは、**セラブロシド含有クリームの作用が単なる脂質の補充ではなく、正常な角化を促す結果であったため**と考えられます。また、基剤のみでも効果を示したのは、毎日外用で塗ることが良い効果をもたらす重要な要素であることを示唆しています。そして今回の検討は、セラブロシドに抗炎症効果は期待できないことから炎症所見の少ないアトピー性皮膚炎の方を対象にしていました。しかし 10 例以上の顔面紅斑にも使用してみたところ明らかな改善効果が認められたそうです（メカニズムは不明です）。

★総括★

セレブロシド含有クリームにはアトピー性皮膚炎や皮脂欠乏性湿疹の改善に有効であることがわかっています。その効果はクリームを外用することによる単なる脂質の補充だけではなく、セレブロシドによる角化の促進が大きく関わっていると考えられます。

参考資料：浜中すみ子ら，アトピー性皮膚炎，皮脂欠乏性皮膚などに対するセレブロシド含有クリーム外用の試み，皮膚(37)(5)，619-625，1995

化粧品成分オンラインより「セレブロシド」 一部抜粋